

目標は目標を達成することなり

第7期生 諸角 陽太

ゼミのおかげで『毎日充実してた』『一生懸命になれた』とは死んでも言いたくない。そして死にたくない。諸角です。

小野ゼミに入る前から、大学生活は充実しまくっていたし、一生懸命になれてもいた。だから自分の事しか考えていない僕がゼミに入った時に掲げていた目標は単純明解。『自分の目標を達成する』だ。小野ゼミ生をやらせてもらった2年間。この目標のために多くの人に迷惑をかけたのを謝りたい。



ゼミで常にひそかに何かを企んでいた著者

1番最初の『自分の目標』は『インゼミで商学会賞をとる』だった。名誉や賞金には興味はなかったが、努力を形にすることには意味があった。ゆえに飲み会や食事で話しまくって表面から友人を作ることは僕にとっては無意味で、そのせいでインゼミのメンバーや指導して下さった先生、先輩に迷惑をかけた。

2番目の『自分の目標』は『いい後輩を持つ』だった。4月、初めてのケースで真っすぐに苦しむ8期を見て、好感をもった。一度曲がった人を真っすぐに戻すためにはもう一度曲げなければならない。曲がらず真っすぐなままでいてほしいと思った。ゆえにレポートで手を抜こうものなら、エグゼミに入っておきながらエグさを避けてコピペでもしようものなら、添削時にキラー諸角を出現させ、ビビらせた。

3番目の『自分の目標』は『三田祭のダンスステージに立ち、かつ卒論を締め切りまでに完成させる』だった。小野ゼミをこなしながら、所属するダンスサークルの三田祭ステージに立つことを先生に相談した。先生はかまわないと言い、応援してくれた。窪田さんは毎週夜遅くまで丁寧に添削し、電話で相談にもものってくれた。それなのに11月上旬、完成が目の前にきていたのに、放置した。

最後の『自分の目標』、それが『恩返し』だ。僕は小野ゼミのおかげで、12月中旬自分の満足のいく卒論を完成することができた。だから2011年1月16日現在、これを英訳したいと思っている。僕はなんの力もない人間だが、この論文はやってくれる気がする。『小野ゼミ』の名前が海外の論文に掲載されるよう、僕は小野ゼミ生活を卒業直前まで続けたい。だから、ギリギリまでお付き合いいただきたい。

さて、そろそろスペースがなくなった。書ききれなかったメッセージを一気に消化したい。一緒に乾杯してくれてありがとう。「カメの水換えがある」って言って食事断ってごめんなさい。年賀状くれてありがとう。飲み会の後ゲロりまくってごめんなさい。卒論の質問票回答してくれてありがとう。顎外してごめんなさい。過去問くれてありがとう。後ろ向きで集合写真に収まってごめんなさい。WEBページ真っ白にしてごめんなさい。採点表に「〇〇さんがかわいかった」とか書いてごめんなさい。休み時間、生協までの全力疾走にけんちゃんたちを付き合わせてごめんなさい。似合わないくせに金髪にしてごめんなさい。「卒業旅行は千葉県がいい」とか言ってごめんなさい。ゼミのおかげで毎日充実してて一生懸命になれましたありがとう。